

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 69 号
平成 27 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|-------------------------|
| 住 所 | 〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号 |
| 氏 名 | 学校法人 獨協学園 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|----------|
| 獨協医科大学病院 |
|----------|

3 所在の場所

| |
|---|
| 〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880 電話(0282)86-1111 |
|---|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| ○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |
|---|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| 内科 | 有 ・ ○無 |
|--|--------|
| 内科と組み合わせた診療科名等 1心臓・血管内科 2消化器内科 3血液・腫瘍内科 4循環器・腎臓内科 5神経内科 6内分泌代謝内科 7呼吸器・アレルギー科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

| | |
|---|--------|
| 外科 | ○有 ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名 1心臓・血管外科 2形成外科・美容外科 3小児外科 4呼吸器外科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| |
|---|
| ○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 ○7産婦人科 8産科 9婦人科 ○10眼科 11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科 |
|---|

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|--------------------------|--------|
| 歯科 | 有 ・ ○無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科 | |
| 歯科の診療体制 | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| |
|-------------------------------|
| 1頭頸部・耳鼻咽喉科 2リハビリテーション科 3病理診断科 |
|-------------------------------|

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
|-----|-----|----|----|--------|--------|
| 42床 | 0床 | 0床 | 0床 | 1,125床 | 1,167床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年9月1日現在)

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-----------|------|------|--------|---------------|-----|-----------------------|------|
| 医 師 | 453人 | 4.8人 | 457.8人 | 看 護 補 助 者 | 69人 | 診 療 エ ッ ク ス 線 技 師 | 0人 |
| 歯 科 医 師 | 18人 | 0人 | 18人 | 理 学 療 法 士 | 16人 | 臨 床 検 査 技 師 | 92人 |
| 薬 剤 師 | 74人 | 0人 | 74人 | 作 業 療 法 士 | 5人 | 衛 生 検 査 技 師 | 0人 |
| 保 健 師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視 能 訓 練 士 | 7人 | そ の 他 | 0人 |
| 助 産 師 | 45人 | 1.2人 | 46.2人 | 義 肢 装 具 士 | 0人 | あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師 | 0人 |
| 看 護 師 | 947人 | 65人 | 1,012人 | 臨 床 工 学 士 | 21人 | 医 療 社 会 事 業 従 事 者 | 14人 |
| 准 看 護 師 | 2人 | 2.2人 | 4.2人 | 栄 養 士 | 10人 | そ の 他 の 技 術 員 | 5人 |
| 歯 科 衛 生 士 | 4人 | 0人 | 4.0人 | 歯 科 技 工 士 | 1人 | 事 務 職 員 | 233人 |
| 管 理 栄 養 士 | 22人 | 0人 | 22.0人 | 診 療 放 射 線 技 師 | 67人 | そ の 他 の 職 員 | 80人 |

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年9月1日現在)

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|---------|-----|----------|------|
| 総合内科専門医 | 15人 | 眼科専門医 | 12人 |
| 外科専門医 | 32人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 10人 |
| 精神科専門医 | 2人 | 放射線科専門医 | 11人 |
| 小児科専門医 | 20人 | 脳神経外科専門医 | 10人 |
| 皮膚科専門医 | 8人 | 整形外科専門医 | 11人 |
| 泌尿器科専門医 | 8人 | 麻酔科専門医 | 7人 |
| 産婦人科専門医 | 13人 | 救急科専門医 | 11人 |
| | | 合 計 | 170人 |

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|--------------|-----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 1,008.3人 | 14.1人 | 1,022.4人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,998.6人 | 87.3人 | 2,085.9人 |
| 1日当たり平均調剤数 | | | 3,899.2剤 |
| 必要医師数 | | | 226人 |
| 必要歯科医師数 | | | 6人 |
| 必要薬剤師数 | | | 49人 |
| 必要(准)看護師数 | | | 582人 |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設 備 | | 概 要 | |
|--------------|----------------------|--------------|--|------|---------|------------|
| 集中治療室 | 200m ² | 鉄筋 コンクリート | 病床数 | 10床 | 心電計 | ○有・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | ○有・無 | 心細動除去装置 | ○有・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | ○有・無 | ペースメーカー | ○有・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] | 床面積 | 376m ² | | 病床数 | 27床 |
| | [移動式の場合] | 台数 | 台 | | | |
| 医薬品 情報管理室 | [専用室の場合] | 床積 | 54m ² | | | |
| | [共用室の場合] | 共用する室名 | | | | |
| 化学検査室 | 615m ² | | (主な設備) 全自動生化学分析装置JCA-BM6070 // JCA-BM9130 | | | |
| 細菌検査室 | 41.63m ² | | (主な設備) 全自動細菌検査分析装置マイクロスキャンシステムMT-6500 | | | |
| 病理検査室 | 266m ² | | (主な設備) 自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置 | | | |
| 病理解剖室 | 80m ² | | (主な設備) 感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器 | | | |
| 研究室 | 21,154m ² | | (主な設備) マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シークエンサーIon Protonシステム | | | |
| 講義室 | 288m ² | | 室数 | 1室 | 収容定員 | 238人 |
| 図書室 | 5,894m ² | | 室数 | 1室 | 蔵書数 | 250,000冊程度 |

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 算定期間 | | 平成26年4月1日～平成27年3月31日 | |
|----------|------------------------|----------------------|-------|
| 紹介率 | 67.9% | 逆紹介率 | 49.8% |
| 算出 根拠 | A: 紹介患者の数 | 20,102人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 17,676人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 3,987人 | |
| | D: 初診の患者の数 | 35,474人 | |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---|--------|
| 実物大臓器立体モデルによる手術支援 | 21人 |
| 陽子線治療 | 1人 |
| 神経変性疾患の遺伝子診断 | 6人 |
| EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法) | 15人 |
| 培養細胞によるライソゾーム病の診断 | 1人 |
| RET遺伝子診断 | 2人 |
| 単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法) | 10人 |
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 | 104人 |
| 前眼部三次元画像解析 | 4,207人 |
| IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 | 21人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---------------------------|-------|
| 内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔胸下腎部分切除術 | 1人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------|-----|
| 医療技術名 | 自家蛍光及び狭帯域光による気管支鏡検査 | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要 自家蛍光観察及び狭帯域光観察による気管支鏡検査で、早期肺癌の発見と治療効果確認を行い、肺癌の診療の向上と | | | |
| 医療技術名 | 局所麻酔下高周波ITナイフによる胸膜全層生検術 | 取扱患者数 | 40人 |
| 当該医療技術の概要 局所麻酔下胸腔鏡下に高周波ITナイフを用いて胸膜の全層を生検し悪性中皮腫などの診断を確定する | | | |
| 医療技術名 | 植込型補助人工心臓植込術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 重症心不全に対する植込型補助人工心臓植込術 | | | |
| 医療技術名 | 重症心不全に対する体外式補助人工心臓植込術 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 重症心不全に対する体外式補助人工心臓植込術 | | | |
| 医療技術名 | 脳死肺移植 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの | | | |
| 医療技術名 | 生体肺移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 慢性呼吸不全症例に親族より肺葉を摘出し移植したもの | | | |
| 医療技術名 | Raczカテーテルによる硬膜外癒着剥離術 (Neuroplasty) | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 Raczカテーテル(スプリングガイドカテーテル)を硬膜外腔に挿入し、透視下に硬膜外腔の癒着部位に留置。その後、ヒアルロニダーゼとステロイドを用いて硬膜外腔の癒着を融解する。 | | | |
| 医療技術名 | 難治性心室頻拍に対する星状神経節破壊術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 薬物療法やICDが無効な難治性心室頻拍発作を繰り返す症例に対して試験的に左星状神経節ブロックを施行。頻拍発作が消失したことを確認し、左星状神経節に神経破壊薬を投与。また、高周波熱凝固を行い永続的な頻拍発作の消失を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 20 channel脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療 | 取扱患者数 | 30人 |
| 当該医療技術の概要 20 channel脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療 | | | |
| 医療技術名 | 同種造血細胞移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 神経芽腫の疾患に対し臍帯血移植を実施した | | | |
| 医療技術名 | 埋込型除細動器移植術 | 取扱患者数 | 16人 |
| 当該医療技術の概要 自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。 | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|-------|------|
| 医療技術名 | 血管内超音波検査 | 取扱患者数 | 194人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 冠動脈の動脈硬化(石灰化、アテローム硬化、血栓の有無)などについて詳細な評価を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 経皮的冠動脈血栓吸引術 | 取扱患者数 | 33人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル(レスキュー、スロンバスター、パークサージ)にて血栓を吸引除去するもの。 | | | |
| 医療技術名 | 血漿交換療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。 | | | |
| 医療技術名 | 血液吸着療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。 | | | |
| 医療技術名 | 心室再同期療法 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 冠静脈洞および右室にペースメーカーリードを挿入し、左右心室を同時に刺激するペースメーカー装置を体内に埋め込む | | | |
| 医療技術名 | 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 食道癌に対して完全鏡視下に食道およびリンパ節を切除し、再建も行う。体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が | | | |
| 医療技術名 | 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除に対するDCF併用化学放射線療法 | 取扱患者数 | 10人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 食道癌に対して非常に効果の高いDocetaxel, Cisplatin, 5-fluorouracilの3剤併用化学療法に放射線療法を加えることにより高い奏効率と根治率の獲得が期待できる。 | | | |
| 医療技術名 | 食道癌に対する内視鏡下手術用ロボットを用いた胸腔鏡下食道切除術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 食道癌に対して内視鏡下手術用ロボットを用いて食道およびリンパ節を切除する。拡大視効果による精密な手術と体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が期待できる。 | | | |
| 医療技術名 | 進行胃癌に対するDCS併用化学療法 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 進行胃癌に対して従来はあまり行われていなかった術前化学療法をDocetaxel, Cisplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。 | | | |
| 医療技術名 | 進行直腸癌に対する術前化学放射線療法 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 本来は肛門を温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく肛門温存率を向上させることが期待できる。 | | | |
| 医療技術名 | 光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術 | 取扱患者数 | 29人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待出来る。 | | | |
| 医療技術名 | 血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察 | 取扱患者数 | 30人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|-------|------|
| 医療技術名 | IVUSを用いた冠動脈形成術 | 取扱患者数 | 274人 |
| 当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了点決定に必須なモダリティである。特に我々の使用するバーチャルヒストロジーIVUSは冠動脈形成術後の予後予測に有用である。 | | | |
| 医療技術名 | 修正型電気けいれん療法 | 取扱患者数 | 298人 |
| 当該医療技術の概要 難治性うつ病や治療抵抗性統合失調症に対して筋弛緩薬によるけいれんを抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する | | | |
| 医療技術名 | 内視鏡的胆管結石除去術 | 取扱患者数 | 148人 |
| 当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療 | | | |
| 医療技術名 | 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術 | 取扱患者数 | 7人 |
| 当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療 | | | |
| 医療技術名 | 炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法 | | | |
| 医療技術名 | クローン病患者に対するダブルバルーン小腸内視鏡 | 取扱患者数 | 65人 |
| 当該医療技術の概要 ダブルバルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う | | | |
| 医療技術名 | 劇症肝炎に対する血液浄化療法 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法 | | | |
| 医療技術名 | 重症膵炎に対する動注療法 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 重症急性膵炎に対する集中治療としての動脈内薬物注入療法 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 102人 | ・膿疱性乾癬 | 18人 |
| ・多発性硬化症 | 67人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 4人 |
| ・重症筋無力症 | 82人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 26人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 237人 | ・重症急性膵炎 | 9人 |
| ・スモン | 1人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 61人 |
| ・再生不良性貧血 | 30人 | ・混合性結合組織病 | 36人 |
| ・サルコイドーシス | 121人 | ・原発性免疫不全症候群 | 4人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 24人 | ・特発性間質性肺炎 | 21人 |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 273人 | ・網膜色素変性症 | 29人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 110人 | ・プリオン病 | 0人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 38人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 25人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 286人 | ・神経線維腫症 | 26人 |
| ・大動脈炎症候群 | 15人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 2人 |
| ・ビュルガー病 | 8人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 1人 |
| ・天疱瘡 | 23人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 17人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 50人 | ・ライソゾーム病 | 3人 |
| ・クローン病 | 118人 | ・副腎白質ジストロフィー | 1人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 3人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 6人 | ・脊髄性筋委縮症 | 3人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 268人 | ・球脊髄性筋委縮症 | 0人 |
| ・アミロイドーシス | 3人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 25人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 55人 | ・肥大型心筋症 | 7人 |
| ・ハンチントン病 | 1人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症) | 30人 | ・ミトコンドリア病 | 5人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 11人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 2人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 138人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 43人 | ・黄色靭帯骨化症 | 5人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 4人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 104人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-----------------------|------------------|
| ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・救急搬送患者地域連携受入加算 |
| ・歯科外来診療環境体制加算 | ・データ提出加算2 |
| ・歯科診療特別対応連携加算 | ・救命救急入院料3 |
| ・特定機能病院入院基本料 | ・特定集中治療室管理料 3 |
| ・臨床研修病院入院診療加算 | ・総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 | ・新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・小児入院医療管理料1 |
| ・妊産婦緊急搬送入院加算 | ・短期滞在手術基本料 I・II |
| ・診療録管理体制加算 | ・ |
| ・急性期看護補助体制加算 | ・ |
| ・療養環境加算 | ・ |
| ・重症者等療養環境特別加算 | ・ |
| ・無菌治療室管理加算 | ・ |
| ・重症皮膚潰瘍管理加算 | ・ |
| ・緩和ケア診療加算 | ・ |
| ・精神科身体合併症管理加算 | ・ |
| ・摂食障害入院医療管理加算 | ・ |
| ・がん診療連携拠点病院加算 | ・ |
| ・医療安全対策加算 | ・ |
| ・感染防止対策加算1 | ・ |
| ・患者サポート充実加算 | ・ |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ |
| ・ハイリスク妊娠管理加算 | ・ |
| ・ハイリスク分娩管理加算 | ・ |
| ・退院調整加算 | ・ |
| ・救急搬送患者地域連携紹介加算 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------------------------|------------------------------------|
| ・ 高度難聴指導管理料 | ・ 検体検査管理加算(Ⅳ) |
| ・ 糖尿病合併症管理料 | ・ 植込型心電図検査 |
| ・ がん性疼痛緩和指導管理料 | ・ 時間内歩行試験 |
| ・ がん患者指導管理料1 | ・ 胎児心エコー法 |
| ・ がん患者指導管理料2 | ・ ヘッドアップルティルト試験 |
| ・ 移植後患者指導管理料(臓器移植) | ・ 皮下連続式グルコース測定 |
| ・ 糖尿病透析予防指導管理料 | ・ 長期継続頭蓋内脳波検査 |
| ・ 外来リハビリテーション診療料 | ・ 神経学的検査 |
| ・ 外来放射線照射診療料 | ・ 補聴器適合検査 |
| ・ ニコチン依存症管理料 | ・ ロービジョン検査判断料 |
| ・ 地域連携診療計画管理料 | ・ コンタクトレンズ検査料1 |
| ・ がん治療連携計画策定料 | ・ 小児食物アレルギー負荷検査 |
| ・ がん治療連携管理料 | ・ 内服・点滴誘発試験 |
| ・ 認知症専門診断管理料 | ・ センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。) |
| ・ 肝炎インターフェロン治療計画料 | ・ 持続血糖測定器加算 |
| ・ 薬剤管理指導料 | ・ 1回線量増加加算 |
| ・ 医療機器安全管理料1 | ・ 磁気による膀胱等刺激法 |
| ・ 医療機器安全管理料2 | ・ 画像診断管理加算1 |
| ・ 医療機器安全管理料(歯科) | ・ 遠隔画像診断 |
| ・ 歯科治療総合医療管理料 | ・ ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 |
| ・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2 | ・ CT撮影及びMRI撮影 |
| ・ 造血器腫瘍遺伝子検査 | ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| ・ HPV核酸検出 | ・ 外来化学療法加算1 |
| ・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・ 無菌製剤処理料 |
| ・ 検体検査管理加算Ⅰ・Ⅲ | ・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) |
| | ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) |

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| ・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) | ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) | ・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 |
| ・ がん患者リハビリテーション料 | ・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| ・ 集団コミュニケーション療法料 | ・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術 |
| ・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) | ・ 両心室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両心室 |
| ・ 医療保護入院等診療料 | ・ ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 |
| ・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術 | ・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法) |
| ・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの) | ・ 補助人工心臓 |
| ・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの) | ・ 植込型補助人工心臓(拍動流型) |
| ・ 透析液水質確保加算 | ・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型) |
| ・ 一酸化窒素吸入療法 | ・ 経皮的動脈遮断術 |
| ・ 歯科技工加算 | ・ ダメージコントロール手術 |
| ・ 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色種センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。) | ・ 体外衝撃波胆石破碎術 |
| ・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | ・ 腹腔鏡下肝切除 |
| ・ 胃瘻造設術 | ・ 生体部分肝移植術 |
| ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 | ・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 |
| ・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)) | ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| ・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。) | ・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術 |
| ・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2 | ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 |
| ・ 同種死体肺移植術 | ・ 腹腔鏡下小切開副腎部分切除術・腹腔鏡下小切開腎摘出術・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術 |
| ・ 生体部分肺移植術 | ・ 同種死体腎移植術 |
| ・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) | ・ 生体腎移植術 |
| ・ 経皮的冠動脈形成術 | ・ 膀胱水圧拡張術 |
| ・ 経皮的冠動脈ステント留置術 | ・ 人工尿道括約筋植込・置換術 |
| ・ 経皮的中隔心筋焼灼術 | ・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 |
| | ・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術 |

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|---------|
| ・ 輸血管管理料(Ⅱ) | ・ |
| ・ 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算 | ・ |
| ・ 内視鏡手術用支援機器加算 | ・ |
| ・ 歯周組織再生誘導手術 | ・ |
| ・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | ・ |
| ・ 麻酔管理料(Ⅰ)、麻酔管理料(Ⅱ) | ・ |
| ・ 放射線治療専任加算 | ・ |
| ・ 外来放射線治療加算 | ・ |
| ・ 高エネルギー放射線治療 | ・ |
| ・ 定位放射線治療 | ・ |
| ・ クラウン・ブリッジ維持管理料 | ・ |
| ・ 歯科矯正診断料 | ・ |
| ・ 歯科口腔リハビリテーション料2 | ・ |
| ・ 顎口腔機能診断料〔顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限り)の手術前後における歯科矯正に係るもの〕 | ・ |
| ・ CAD/CAM冠 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|---|----------|
| ・他焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 | ・ |
| ・前眼部三次元画像解析 | ・ |
| ・末梢血単核球移植による血管再生治療 | ・ |
| ・IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の評価 | ・ |
| ・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定 | ・ |
| ・急性心筋梗塞に対するエボエジンペータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限り) | ・ |
| ・慢性心不全に対する和温療法 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 平成26年度 : 2回 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 35例 / 部検率 4.40% |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|-------------|------------|----------|---------|
| 血管細胞における血流のメカノトランスダクション機構 | 安藤 譲二 | 整形外科 | 12,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脂肪幹細胞を用いた再生組織付加prefabricated flapの基礎的研究 | 朝戸 裕貴 | 形成外科学 | 2,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脊髄後角におけるβエンドルフィンの鎮痛機序の解明：サブスタンスP放出への影響 | 寺島 哲二 | 麻酔科学 | 2,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| L-セリン合成異常を伴う統合失調症を通じた病因の生物学的理解と疾患克服の試み | 尾関 祐二 | 精神神経医学 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| QT間隔異常を引き起こす因子を通じた統合失調症病態の理解と治療・予防への展開 | 藤井 久彌子 | 精神神経医学 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた下部尿路障害モデル再生の検討 | 山西 友典 | 排泄機能センター | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腎癌におけるFHがん抑制遺伝子解析とメタボロミクスによるエネルギー代謝異常解析 | 釜井 隆男 | 泌尿器科学 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 小児期の体重増加と肥満・代謝異常との関係を解明する探索的・系統的なコホート研究 | 有阪 治 | 小児科学 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| D-アミノ酸オキシターゼが脊髄侵害受容性シナプス伝達に与える影響 | 高薄 敏史 | 麻酔科学 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌発生母細胞の同定とその臨床的意義 | 川又 均 | 口腔外科学 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 母集団薬物動態解析による抗うつ薬の光学異性体血中濃度および薬力学予測法の確立 | 下田 和孝 | 精神神経医学 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 甲状腺腫瘍における新規遺伝子HMGA2の制御機構 | 菱沼 昭 | 感染制御・臨床検査医学 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 胃癌細胞における放射線ヨード治療の可能性の基礎的検討 | 小飼 貴彦 | 感染制御・臨床検査医学 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 低出力パルス超音波刺激を用いた早期骨再生法の開発 | 小宮山 雄介 | 口腔外科学 | 900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 動脈屈曲症候群ATS原因遺伝子GLUT10輸送基質同定からの疾患発症因子の解明 | 福田 宏嗣 | 心臓・血管外科学 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 気道リモデリングの嗅粘膜障害への関与—好酸球性副鼻腔炎の嗅粘膜分泌異常の解明— | 春名 真一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| cMyc-LATI axisを基盤とした胸腺上皮性悪性腫瘍治療戦略の確立 | 千田 雅之 | 呼吸器外科学 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 大腸癌化学療法の効果予測するDNA修復蛋白群発現に関する研究 | 山口 悟 | 第一外科学 | 700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| I型コラーゲン転写活性化因子(COLF2)の精製とcDNAクローニング | 簗持 淳 | 皮膚科学 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 分層採皮における新しい採皮法、採皮デバイスの研究開発 | 高田 悟朗 | 形成外科学 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| リアルタイム知的画像処理・拡張現実技術に基づく手術ナビゲーションシステムの構築 | 下田 貢 | 第二外科学 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 遠隔虚血プレコンディショニングによる皮弁の生着範囲と血流動態に関する実験的研究 | 政岡 浩輔 | 形成外科学 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| レム睡眠行動異常症におけるドーパミン神経機能の経年変化 | 宮本 雅之 | 内科学(神経) | 300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|---|-------|----------------|-----------|----|-------|
| じん肺の診断基準及び手法に関する調査研究 | 荒川 浩明 | 放射線医学 | 代表者一括計上 | 補委 | 厚生労働省 |
| 先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注療法の有効性・安全性に関する研究 | 有阪 治 | 小児科学 | 代表者一括計上 | 補委 | 厚生労働省 |
| 乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の憎悪抑制効果に関する他施設共同二重盲検ランダム化比較試験 | 吉原 重美 | 小児科学 | 代表者一括計上 | 補委 | 厚生労働省 |
| 慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究 | 山口 重樹 | 麻酔科学 | 1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| HIV母子感染の疫学調査と予防対策および女性・小児感染者支援に関する研究 | 大島 教子 | 産科婦人科学 | 1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 吸収性スプレーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討 | 村上 昌雄 | 放射線治療センター | 1,000,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 高速シークエンサーを用いた包括的臨床遺伝子検査システムの構築 | 石井 芳樹 | 内科学（呼吸器・アレルギー） | 800,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略 | 春名 眞一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 700,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラボルフィンナトリウム（レザフィリン）及び半導体レーザー（PDレーザー）を用いた光線力学療法の医師主導治験 | 中村 哲也 | 医療情報センター | 500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 診断基準・診療指針の改良と普及をめざした大動脈疾患など遺伝性血管難病に関する調査研究 | 簗持 淳 | 皮膚科学 | 500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究 | 簗持 淳 | 皮膚科学 | 500,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 | 種市 洋 | 整形外科 | 300,000 | 補委 | 厚生労働省 |
| 分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発 | 植木 敬介 | 腫瘍センター | 1,000,000 | 補委 | 文部科学省 |

-
- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|--|----------|--|--|
| 1 | Toyoda S, Kikuchi M, Komatsu T, Hori Y, Nakahara S, Kobayashi S, Sakai Y, Inoue T, Taguchi I | 心臓・血管内科 | Impact of the oral adsorbent AST-120 on oxidative stress and uremic toxins in high-risk chronic kidney disease patients | Int J Cardiol 177(2) 705-707 2014/12 |
| 2 | Toyoda S, Tajima E, Fukuda R, Masawa T, Imai S, Amano H, Arikawa T, Yoshida A, Hishinuma A, Inoue T | 心臓・血管内科 | Early surgical intervention and optimal medical treatment for Candida parapsilosis endocarditis. | Intern Med 54(4) 411-413 2015 |
| 3 | Takahashi F, Yoshitake N, Akima T, Kino H, Nakano M, Tsuchida C, Tsuchida K, Tominaga K, Sasai T, Masuyama H, Hiraishi H | 消化器内科 | A second-look endoscopy may not reduce the bleeding after endoscopic submucosal dissection for gastric epithelial neoplasm | BMC Gastroenterol vol.14 152 2014/8 |
| 4 | Horinaka S, Yagi H, Ishimura K, Fukushima H, Shibata Y, Sugawara R, Ishimitsu | 循環器・腎臓内科 | Cardio-ankle vascular index (CAVI) correlates with aortic stiffness in the thoracic aorta using ECG-gated multi-detector row computed tomography | Atherosclerosis vol.235(1) 239~245 2014/7 |
| 5 | Ishimitsu T, Ohno E, Ueno Y, Onoda S, Nagase A, Ohira T, Naka | 循環器・腎臓内科 | Effects of atorvastatin and ezetimibe on endothelial function in dyslipidemic patients with chronic kidney disease | Clin Exp Nephrol vol.18(5) 704~710 2014 |
| 6 | Iwasaki A, Kokubun N, Nishihira T, Nagashima T, Hirata K | 神経内科 | [Isolated cerebellar hemiatrophy: a case report]. | Brain Nerve 66(7) 882-884 2014/7 |
| 7 | Iwanami H, Iwasaki A, Okamura M, Kawasaki A, Sada T, Nakamura T, Kokubun N, Hirata K | 神経内科 | Post-irradiation Skin Changes Associated with Lumbosacral Radiculopathy. | Intern Med 54(15) 1913-1917 2015 |

| | | | | |
|----|--|-------------|---|---|
| 8 | Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Hirata K | 神経内科 | Parkinson's disease and sleep/wake disturbances | Curr Neurol Neurosci Rep 15(3) 8 2015/3 |
| 9 | Kokubun N, Nagashima T, Okamura M, Hirata K, Yuki N | 神経内科 | Timing is crucial for electrodiagnosis of Guillain-Barre syndrome. | J Neurol Neurosurg Psychiatry 85(11) 1289-1290 2014/11 |
| 10 | Takashima R, Tanaka H, Kimoto K, Watanabe Y, Hirata K | 神経内科 | Topographic Analysis of Electroencephalographic changes during photic driving responses in patients with migraine | Neuropsychobiology 71(1) 49-62 2015/2 |
| 11 | Suzuki K, Nakamura T, Numao A, Fujita H, Komagamine T, Nagashima T, Asakawa Y, Watanabe Y, Takekawa H, Hirata K | 神経内科 | Acute hemicerebellitis in a young adult: A case report and literature review | J Neurol Sci 347(1-2) 364-367 2014/6 |
| 12 | Kawasaki A, Suzuki K, Takekawa H, Nakamura T, Yamamoto M, Asakawa Y, Okamura M, Hirata K | 神経内科 | Co-occurrence of multiple cerebral infarctions due to hypercoagulability associated with malignancy and meningeal carcinomatosis as the initial manifestation of gastric cancer | BMC Neurol 14 160 2014/8 |
| 13 | Domeki N, Matsumura M, Monden T, Nakatani Y, Aso Y | 内分泌代謝内科 | A Randomized Trial of Step-up Treatment with Premixed Insulin Lispro-50/50 vs. | Diabetes Ther 5(2) 49-50 2014/12 |
| 14 | Suzuki K, Tanaka S, Aoki C, Kato K, Jojima T, Aso Y | 内分泌代謝内科 | Greater Efficacy and Improved Endothelial Dysfunction in Untreated Type 2 Diabetes with Liraglutide versus Sitagliptin | Dokkyo Journal of Medicine Science 41(3) 211-220 2014/10 |
| 15 | Shimizu Y, Shimoyama Y, Kawada A, Kusano M, Hosomi Y, Sekiguchi M, Kawata T, Horie T, Ishii Y, Yamada M, Dobashi K, Takise A | 呼吸器・アレルギー内科 | Gastrointestinal symptoms in idiopathic pulmonary fibrosis patients treated with pifenidone and herbal medicine. | J Biol Regul Homeost Agents 28(3) 433-442 2014/7-9 |
| 16 | Hirata H, Yoshida N, Watanabe M, Sugiyama K, Arima M, Ishii Y | 呼吸器・アレルギー内科 | Sensitization of specific IgE-positive Japanese who have experienced hymenoptera stings to recombinant versions of the ves v 5 allergens in hornet venom. | Allergol Int 64(1) 115-117 2015/1 |

| | | | | |
|----|---|-------------|--|---|
| 17 | Shimizu Y, Dobashi K, Nagase H, Ohta K, Sano T, Matsuzaki S, Ishii Y, Satoh T, Koka M, Yokoyama A, Ohkubo T, Ishii Y, Kamiya T. | 呼吸器・アレルギー内科 | Co-localization of iron binding on silica with p62/sequestosome1 (SQSTM1) in lung granulomas of mice with acute silicosis. | J Clin Biochem Nutr 56(1) 74-83 2015/1 |
| 18 | Shimizu Y, Takise A, Morita H, Hosomi Y, Kasahara N, Kawata T, Horie T, Ishii Y, Yamada M | 呼吸器・アレルギー内科 | Serum glycopeptidolipid core IgA antibody levels in patients with chest computed tomography features of Mycobacterium avium-intracellulare complex pulmonary disease. | J Biol Regul Homeost Agents 28(3) 399-405 2014/7-9 |
| 19 | Shimizu Y, Kamiyoshihara M, Okajo J, Ishii Y, Takise A | 呼吸器・アレルギー内科 | Tracheobronchial stenosis evaluated by inspiratory and expiratory three-dimensional computed tomography and impulse oscillation with three-dimensional color imaging in a patient with relapsing polychondritis. | J Biol Regul Homeost Agents 28(2) 325-331 2014/4-6 |
| 20 | Kumiko Fujii , Yuji Ozeki, Hiroaki Okayasu , Yumiko Takano, Takahiro Shinozaki, Hiroaki Hori, Masami Orui, Minoru Horie, Hiroshi Kunugi, Kazutaka Shimoda | 精神神経科 | QT is longer in drug-free patients with schizophrenia compared with age-matched healthy subjects. | PLOS one 9(6) e98555 2014/6 |
| 21 | Arisaka O, Ichikawa G, Koyama S, Shimura N | 小児科 | Anthropometric indices and metabolic co-morbidities. | J Pediatr 166(6) 1548-1549 2015/1 |
| 22 | Arisaka O, Koyama S, Ichikawa G, Kariya K, Yoshida A, Shimura N | 小児科 | Pediatric obesity and adult metabolic syndrome. | J Pediatr 164(6) 1052 2014/6 |
| 23 | Koyama S, Sairenchi T, Shimura N, Arisaka O | 小児科 | Association between timing of adiposity rebound and body weight gain during infancy | Journal of Pediatrics 166(2) 309-312 2015/1 |
| 24 | Miyamoto K, Kozu S, Asakawa A, Tsuboi T, Hirao J, Ono K, Arisaka O | 小児科 | Therapeutic hypothermia with the use of intracranial pressure monitoring for acute disseminated encephalomyelitis with brainstem lesion: a case report. | J Child Neurol 29(9) 69-73 2014/9 |

| | | | | |
|----|--|------|--|---|
| 25 | Sato Y, Kurosawa H, Fukushima K, Okuya M, Yabe H, Arisaka O | 小児科 | Necessary stem cell transplantation using myeloablative therapy for myelodysplastic syndrome with progression of genotypic abnormalities and TP53 dysfunction in a young adult | Pediatr Transplant 18(7) 255-257 2014/11 |
| 26 | Imataka G, Okuya M, Hirao J, Arisaka O | 小児科 | Terminal deletion 6q syndrome with 11q partial trisomy mosaicism due to maternal balanced translocation | Genet Couns 25(1) 63-67 2014 |
| 27 | Imataka G, Wake K, Yamauchi H, Ono K, Arisaka O | 小児科 | Brain hypothermia therapy for status epilepticus in childhood. | Eur Rev Med Pharmacol Sci 18(13) 1883-1888 2014/7 |
| 28 | Imataka G, Arisaka O | 小児科 | Long-term, high-dose intravenous immunoglobulin therapy | Cell Biochem Biophys 69 747-748 2014/7 |
| 29 | Imataka G, Arisaka O | 小児科 | An infant with steroid-refractory cytomegalovirus-associated ADEM who responded to immunoglobulin therapy | Eur Rev Med Pharmacol Sci 18(15) 2148-2151 2014 |
| 30 | Imataka G, Arisaka O | 小児科 | Serial EEG study in a girl with Landau-Kleffner Syndrome associated with continuous spikes and waves during slow sleep | Eur Rev Med Pharmacol Scivol.41 18(15) 2145-2157 2014 |
| 31 | Ogino K, Nakajima M, Kakuta M, Hayashi M, Yamaguchi S, Tsuchioka T, Kubota K, Sakamoto S, Kato H | 第一外科 | Utility of FDG-PET/CT in the Evaluation of the Response of Locally Advanced Breast Cancer to Neoadjuvant Chemotherapy | Int Surg 99(4) 309-318 2014/7-8 |

| | | | | |
|----|---|------|---|--|
| 32 | Nakajima M, Domeki Y, Satomura H, Takahashi M, Sugawara A, Muroi H, Sasaki K, Yamaguchi S, Miyazaki T, Kuwano H, Kato H | 第一外科 | Salvage lymphadenectomy for recurrent esophageal cancer after chemoradiotherapy | Int Surg 99(4) 452-457 2014/7-8 |
| 33 | Muroi H, Nakajima M, Satomura H, Takahashi M, Domeki Y, Murakami M, Nakamura T, Takada A, Kato H | 第一外科 | Effectiveness of proton beam therapy on liver metastases of esophageal cancer: report of a case. | Int Surg 100(1) 180-184 2015/1 |
| 34 | Muroi H, Nakajima M, Satomura H, Takahashi M, Yamaguchi S, Sasaki K, Yokobori T, Miyazaki T, Kuwano H, Kato H | 第一外科 | Low PHLDA3 Expression in Oesophageal Squamous Cell Carcinomas Is Associated with Poor Prognosis | Anticancer Res 35(2) 949-954 2015/2 |
| 35 | Nakajima M, Satomura H, Takahashi M, Muroi H, Kuwano H, Kato H | 第一外科 | Effectiveness of sternocleidomastoid flap repair for cervical anastomotic leakage after esophageal reconstruction. | Dig Surg 31(4-5) 306-311 2014 |
| 36 | Ogino K, Nakajima M, Kakuta M, Hayashi M, Yamaguchi S, Tsuchioka T, Kubota K, Sakamoto S, Kato H | 第一外科 | Utility of FDG-PET/CT in the evaluation of the response of locally advanced breast cancer to neoadjuvant chemotherapy. | Int Surg 99(4) 309-318 2014/7-8 |
| 37 | Satomura H, Sasaki K, Nakajima M, Yamaguchi S, Onodera S, Otsuka K, Takahashi M, Muroi H, Shida Y, Ogata H, Okamoto K, Kato H | 第一外科 | Can expression of CXCL12 and CXCR4 be used to predict survival of gastric cancer patients? | Anticancer Res 34(8) 4051-4057 2014/8 |
| 38 | Shimoda M, Iwasaki Y, Kubota K | 第二外科 | Harmonic curved shears system prevent of bile leakage after liver resection in a pig model | Int Surg 99(5) 632-639 2014/4-6 |
| 39 | Shimoda M, Iwasaki Y, Kubota K | 第二外科 | Harmonic curved shears system prevent of bile leakage after liver resection in a pig model | Int Surg 99(5) 632-639 2014/4-6 |
| 40 | Iso M, Matsumoto T, Sakuraoka Y, Shiraki T, Kato M, Shimoda M, Aoki T, Kubota K | 第二外科 | IPreoperative neutrophil-to-lymphocyte ratio for prognostication of patients with distal bile duct carcinomas undergoing surgery. | Dig Surg 32(2) 142-149 2015 |

| | | | | |
|----|--|------|---|---|
| 41 | Iwasaki Y, Ishizuka M, Kato M, Kita J, Shimoda M, Kubota K. | 第二外科 | Inflammation-based prognostic score predicts biliary stent patency in patients with unresectable malignant biliary obstruction. | Anticancer Res 34(7) 3617-3622 2014/7 |
| 42 | Mori S, Kita J, Kato M, Shimoda M, Kubota K. | 第二外科 | Usefulness of a new inflammation-based scoring system for prognostication of patients with hepatocellular carcinoma after hepatectomy. | Am J Surg 209(1) 187-193 2015/1 |
| 43 | Ishizuka M, Oyama Y, Abe A, Kubota K. | 第二外科 | Combination of platelet count and neutrophil to lymphocyte ratio is a useful predictor of postoperative survival in patients undergoing surgery for gastric cancer. | J Surg Oncol 110(8) 935-941 2014/12 |
| 44 | Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Iwasaki Y and Kubota K | 第二外科 | Combination of platelet count and neutrophil to lymphocyte ratio is a useful predictor of postoperative survival in patients with colorectal cancer | Int Surg 99 153-160 2014 |
| 45 | Ishizuka M, Kubota K, Kita J, Shimoda M, Kato M, Mori S, Iso Y, Yamagishi H, Kojima M. | 第二外科 | Aspartate aminotransferase-to-platelet ratio index is associated with liver cirrhosis in patients undergoing surgery for hepatocellular carcinoma. | J Surg Res 194(1) 63-68 2015/3 |
| 46 | Ishizuka M, Oyama Y, Abe A, Tago K, Tanaka G, Kubota K. | 第二外科 | Clinical significance of an inflammation-based prognostic system for gastric cancer patients with a preoperative normal serum level of carcinoembryonic antigen. | Anticancer Res 34(12) 7219-7226 2014/12 |
| 47 | Ishizuka M, Oyama Y, Abe A, Tago K, Tanaka G, Kubota K. | 第二外科 | Prognostic nutritional index is associated with survival after total gastrectomy for patients with gastric cancer. | Anticancer Res 34(8) 4223-4229 2014/8 |
| 48 | Ishizuka M, Tago K, Kubota K. | 第二外科 | Impact of prothrombin time-International Normalized Ratio on outcome of patients with septic shock receiving polymyxin B cartridge hemoperfusion. | Surgery 156(1) 168-175 2014/7 |
| 49 | Hachiya H, Kita J, Shiraki T, Iso Y, Shimoda M, Kubota K. | 第二外科 | Intraductal papillary neoplasm of the bile duct developing in a patient with primary sclerosing cholangitis: a case report. | World J Gastroenterol 20(42) 15925-15930 2014/11 |

| | | | | |
|----|--|---------|---|---|
| 50 | Hachiya H, Miura Y, Inoue K, Kyung Hwa Park, Takeuchi M, Kubota K | 第二外科 | Advanced glycation end products impair glucose-induced insulin secretion from rat pancreatic β -cells | World J Gastroenterol 20 15925-15930 2014/4 |
| 51 | Shimizu T, Inoue K, Hachiya H, Shibuya N, Shimoda M, Kubota K. | 第二外科 | Frequent alteration of the protein synthesis of enzymes for glucose metabolism in hepatocellular carcinomas. | J Gastroenterol 49(9) 1324-1332 2014/9 |
| 52 | Shimizu T, Ishizuka M, Kubota K. | 第二外科 | Frequent alteration of the protein synthesis of enzymes for glucose metabolism in hepatocellular carcinomas. | Surg Today 17 2015/2 |
| 53 | Aoki T, Kokudo N | 第二外科 | A lower neutrophil to lymphocyte ratio is closely associated with catarrhal appendicitis versus severe appendicitis. | Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi 111(12) 2272-2279 2014/12 |
| 54 | Ikuko Shibasaki, Hirotsugu Fukuda, Yasuyuki Yamada, Toshiyuki Kuwata, Hironaga Ogawa, Go Tsuchiya, Takayuki Hori, Yusuke Takei, Takashi Kato | 心臓・血管外科 | Hemolytic Anemia soon after Replacement of Ascending Aorta for acute Aortic Dissection | DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES 42(1) 37-41 2015/3 |
| 55 | Ikuko Shibasaki, Hirotsugu Fukuda, Yasuyuki Yamada, Toshiyuki Kuwata, Takayuki Hori, Hironaga Ogawa, Go Tsuchiya | 心臓・血管外科 | Effects of Continuous Infusion of Low-dose Human Atrial Natriuretic Peptide(hANP) on the Lungs during Cardiac Surgery | Ann Thorac Cardiovasc Surg 21(4) 364-369 2014/7 |
| 56 | Toshiyuki Kuwata, Hirotsugu Fukuda, Yasuyuki Yamada, Ikuko Shibasaki, Takayuki Hori, Go Tsuchiya, Hironaga Ogawa, Yusuke Takei, Takashi Kato | 心臓・血管外科 | Aortic Valve Replacement in Anomalous Aortic Origin of Right Coronary Artery | DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES 42(1) 51-54 2015/3 |
| 57 | Riha Shimizu, Yoshimori Hoshino, Harko Irie, Homare Ito, Toshiaki Terauchi, Masayuki Kimura, Junji Furukawa, Hiroharu Shinzaki, Kenji Kobayashi, Yoshiro Ogata | 心臓血管外科 | Ileosigmoid Knot at Week 13 of Pregnancy: Report of Case | Int Surg 2014 99(3) 230-234 2014/6 |

| | | | | |
|----|---|-------|---|--|
| 58 | Chida M | 呼吸器外科 | Challenges in lung transplantation in Japan. | Respir Investig 53(2) 49-50 2015/3 |
| 59 | Chida M,Sakamoto S | 呼吸器外科 | Reply to 'Is it time to validate the prognostic role of F-18-FDG PET/CT scan in thymic epithelial tumors?' | Ann Nucl Med 28(6) 595-596 2014/7 |
| 60 | Inoue T,Hayama M,Kobayashi S,Oyaizu T ,Nakazato Y ,Honma K,Chida M | 呼吸器外科 | Lung Cancer Complicated with IgG4-related Disease of the Lung | Ann Thorac Cardiovasc Surg 20-Supplement 474-477 2014 |
| 61 | Seki N,Sakamoto S,Karube Y, Oyaizu T,Ishihama H, Chida M | 呼吸器外科 | 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography for evaluation of thymic epithelial tumors: utility for World Health Organization classification and predicting recurrence-free survival | Ann Nucl Med 3 257-262 2014/12 |
| 62 | Michiyo Tomaru, Denju Osada, Satoshi Fujita, Kazuya Tamai | 整形外科 | "Treatment of hook of the hamate fractures in adults using low-intensity pulsed ultrasound " | Hand Surgery (Asian Volume) 19(3) 433-436 2014/6 |
| 63 | Abe H, Kamai T, Hayashi K, Anzai N, Shirataki H, Mizuno T, Yamaguchi Y, Masuda A, Yuki H, Betsunoh H, Yashi M, Fukabori Y, Yoshida K. | 泌尿器科 | The Rho-kinase inhibitor HA-1077 suppresses proliferation/migration and induces apoptosis of urothelial cancer cells. | BMC Cancer 14 412 2014/6 |
| 64 | Mizuno T, Kamai T, Abe H, Sakamoto S, Kitajima K, Nishihara D, Yuki H, Kambara T, Betsunoh H, Yashi M, Fukabori Y, Kaji Y, Yoshida K. | 泌尿器科 | Clinically significant association between the maximum standardized uptake value on 18F-FDG PET and expression of phosphorylated Akt and S6 kinase for prediction of the biological characteristics of renal cell cancer. | BMC Cancer 15 1097 2015 |
| 65 | Yashi M | 泌尿器科 | Metronomic Oral Cyclophosphamide Chemotherapy Possibly Contributes to Stabilization of Disease in Patients With Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: A Prospective Analysis of Consecutive Cases. | Clin Genitourin Cancer 12(5) 197-203 2014/10 |

| | | | | |
|----|---|------------|---|--|
| 66 | Yashi M, Nishihara D, Mizuno T, Yuki H, Masuda A, Kambara T, Betsunoh H, Abe H, Fukabori Y, Muraishi O, Kamai T. | 泌尿器科 | Metronomic Oral Cyclophosphamide Chemotherapy Possibly Contributes to Stabilization of Disease in Patients With Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: A Prospective Analysis of Consecutive Cases. | Clin Genitourin Cancer 12(5) 197-203 2014/10 |
| 67 | Yashi M, Mizuno T, Yuki H, Masuda A, Kambara T, Betsunoh H, Abe H, Fukabori Y, Muraishi O, Suzuki K, Nakazato Y, Kamai T. | 泌尿器科 | Prostate volume and biopsy tumor length are significant predictors for classical and redefined insignificant cancer on prostatectomy specimens in Japanese men with favorable pathologic features on biopsy. | BMC Urol 14 43 2014/5 |
| 68 | Aose M, Matsushima H, Mukai K, Katsuki Y, Gotoh N, Senoo T | 眼科 | Influence of intraocular lens implantation on anterior capsule contraction and posterior capsule opacification. | J Cataract Refract Surg 40(12) 2128-2133 2014/12 |
| 69 | Ishimaru S, Senoo T, Gotoh N, Kurosu A, Chiba K | 眼科 | Histologic findings of recipient corneas obtained via deep anterior lamellar keratoplasty. | Japanese Journal of Ophthalmology 58(4) 342-347 2014/7 |
| 70 | Kanaya H, Konno W, Fukami S, Hirabayashi H, Haruna S. | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | Acute exacerbation of Hashimoto thyroiditis mimicking anaplastic carcinoma of the thyroid: A complicated case. | Ear, Nose & Throat Journal 93(12) 18-21 2014/12 |
| 71 | Kanaya H, Konno W, Fukami S, Hirabayashi H, Haruna S | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 | Acute exacerbation of Hashimoto thyroiditis mimicking anaplastic carcinoma of the thyroid: A complicated case | Ear Nose Throat Journal 93(12) 18-21 2014/12 |
| 72 | Miyashita S, Murotsuki J, Muromoto J, Ozawa K, Yaegasho N, Hasegawa H and Kanai H | 産科婦人科 | Measurement of fetal aortic internal diameter changes and pulse wave velocity using the ultrasonic phased-tracking method | Ultrasound in Medicine and Biology 41(5) 1311-1319 2015/3 |
| 73 | Ishida S, Hashimoto I, Seike T, Abe Y, Nakaya Y, Nakanishi H. | 形成外科・美容外科 | Serum albumin levels correlate with inflammation rather than nutrition supply in burns patients: a retrospective study. | J Med Invest 61(3-4) 361-368 2014/9 |
| 74 | Komiyama Y, Kafkova LR, Barasch A, Shah GR, Grbic JT, Novak Z, Komiyama K, Novak J, Mestecky J, Moldoveanu Z. | 口腔外科 | Origin of galactose-deficient immunoglobulin g in gingival crevicular fluid in periodontitis. | Journal of Periodontology 85(12) 1779-1785 2014/12 |

| | | | | |
|----|--|-------|---|--|
| 75 | Makoto Kinouchi, Daisuke Uchida, Nobuyuki Kuribayashi, Tetsuya Tamatani, Hirokazu Nagai, Youji Miyamoto | 口腔外科 | Involvement of miR-518c-5p to Growth and Metastasis in Oral Cancer | PLoS ONE 9(12) e115936 2014/12 |
| 76 | Imai Y. | 病理診断科 | Poorly differentiated adenocarcinoma of the colon: subsite location and clinicopathologic features. | Int J Colorectal Dis 30(2) 187-196 2015/2 |

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十七年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|-------|--------|----|-----|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|-----------------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | ○有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | ○有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 ○申請書類について ○審査の流れについて ○承認後の責務について | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 1 回(その他は持回審査) |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|---|----------------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | ○有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | ○有・無 |
| ・ 規定の主な内容 ○利益相反の定義 ○利益相反管理の対象 ○利益相反管理委員会について | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 3 回 (持回審査のみ) |

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 1 回 |
| ・ 研修の主な内容 ○医学研究に関する指針について ○本学生命倫理委員会について | |

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして後期研修に続きます。

当院の後期研修は、大学病院として各種学会認定施設を取得し、各領域別の専門分野での充実した研修と高度で良質な医療を提供できる専門医の育成を目標としています。

当院レジデントプログラムはこれらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした教育プログラムとして42の後期研修プログラムを備え、高度な研修を実施しています。

【専門研修コース一覧】

心臓・血管内科

- ・心臓・血管内科不整脈部門専門医コース
- ・心臓・血管内科心不全部門専門医コース
- ・心臓・血管内科虚血部門専門医コース

消化器内科

- ・消化器病学会専門医コース

血液・腫瘍内科

- ・日本血液学会専門医コース

循環器・腎臓内科

- ・循環器専門医育成コース
- ・腎臓・透析専門医育成コース

神経内科

- ・日本脳卒中学会専門医コース
- ・日本頭痛学会専門医コース
- ・日本神経学会専門医コース

内分泌代謝内科

- ・糖尿病専門医養成コース
- ・内分泌代謝科専門医養成コース

呼吸器・アレルギー内科

- ・呼吸器専門医コース
- ・腫瘍内科医（呼吸器系）専門医コース
- ・呼吸器内視鏡専門医コース
- ・リウマチ・膠原病内科専門医コース
- ・日本アレルギー学会専門医コース

精神神経科

- ・精神科指導医コース

皮膚科

- ・日本皮膚科学会専門医コース

放射線科

- ・放射線科専門医コース

小児科

- ・小児科専門医コース

第一外科

- ・日本外科学会専門医コース

第二外科

- ・消化器外科専門医コース
- ・肝胆膵高度技能医コース

心臓・血管外科

- ・心臓血管外科専門医取得コース

呼吸器外科

- ・呼吸器外科専門医取得コース

脳神経外科

- ・脳神経外科専門医取得コース

整形外科

- ・日本整形外科学会専門医取得コース
- ・日本脊椎脊髄病学会認定・脊椎脊髄外科指導医取得コース

泌尿器科

- ・泌尿器科専門医取得コース

眼科

- ・眼科専門医研修コース

耳鼻咽喉・頭頸部外科

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成コース

産科婦人科

- ・産科婦人科専門医（婦人科腫瘍）コース
- ・産科婦人科専門医（生殖医療）コース

麻酔部

- ・麻酔科専門医コース

救急医学

- ・救急・集中治療専門医コース

口腔外科

- ・口腔外科専門医取得コース

リハビリテーション科

- ・リハビリテーション科専門医コース

健康管理科

- ・消化器がん検診認定医コース

形成外科・美容外科

- ・形成外科専門医養成コース

感染制御・臨床検査医学

- ・臨床検査専門医コース

病理部

- ・病理専門医コース

2 研修の実績

| | |
|--------|-------------------|
| 研修医の人数 | 87人（初期・研修歯科医3名含む） |
|--------|-------------------|

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者（ ）内は院内標榜科名

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|-----------------------------|-----------|--------|------|
| 豊田 茂 | 心臓・血管内科 | 臨床研修主任指導医 | 22年 | |
| 室久 俊光 | 消化器内科 | 臨床研修主任指導医 | 30年 | |
| 高橋 渉 | 血液・腫瘍内科 | 臨床研修主任指導医 | 16年 | |
| 堀中 繁夫 | 循環器・腎臓内科 | 臨床研修主任指導医 | 33年 | |
| 國分 則人 | 神経内科 | 臨床研修主任指導医 | 19年 | |
| 鈴木 國弘 | 内分泌代謝内科 | 臨床研修主任指導医 | 13年 | |
| 降旗 友恵 | 呼吸器・アレルギー科 （呼吸器・アレルギー内科） | 臨床研修主任指導医 | 18年 | |
| 大曾根 彰 | 精神科 （精神神経科） | 臨床研修主任指導医 | 30年 | |
| 嶋岡 弥生 | 皮膚科 | 臨床研修主任指導医 | 12年 | |
| 桑島 成子 | 放射線科 | 臨床研修主任指導医 | 31年 | |
| 吉原 重美 | 小児科 | 臨床研修主任指導医 | 32年 | |
| 佐々木 欣郎 | 外科 （第1外科） | 臨床研修主任指導医 | 29年 | |
| 佐々木 欣郎 | 小児外科 （第1外科） | 臨床研修主任指導医 | 29年 | |
| 高木 和俊 | 外科 （第2外科） | 臨床研修主任指導医 | 25年 | |
| 栗田 俊之 | 心臓・血管外科 | 臨床研修主任指導医 | 16年 | |
| 佐渡 哲 | 呼吸器外科 | 臨床研修主任指導医 | 21年 | |
| 金 彪 | 脳神経外科 | 臨床研修主任指導医 | 35年 | |
| 竹内 大作 | 整形外科 | 臨床研修主任指導医 | 17年 | |
| 安土 正裕 | 泌尿器科 | 臨床研修主任指導医 | 24年 | |
| 千葉 桂三 | 眼科 | 臨床研修主任指導医 | 36年 | |

| | | | | |
|--------|---------------------------|-----------|-----|--|
| 中島 逸男 | 頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科) | 臨床研修主任指導医 | 20年 | |
| 久野 達也 | 産婦人科 (産科婦人科) | 臨床研修主任指導医 | 13年 | |
| 和久井 崇大 | 歯科口腔外科 (口腔外科) | 臨床研修主任指導医 | 18年 | |
| 鈴木 大雅 | リハビリテーション科 | 臨床研修主任指導医 | 28年 | |
| 梅川 浩平 | 形成外科・美容外科 | 臨床研修主任指導医 | 12年 | |
| 池田 知史 | 麻酔科 | 臨床研修主任指導医 | 18年 | |
| 松島 久雄 | 救急科 (救命救急センター) | 臨床研修主任指導医 | 22年 | |

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

血管造影検査 放射線部・事務部 合同勉強会

・研修の期間・実施回数：平成26年7月18日 17:30～18:30

・研修の参加人数：80名

・研修の主な内容 2

平成26年度 第1回放射線部定例勉強会

1. 放射線撮影における感染症対策について

2. 医療被ばく相談におけるコミュニケーション

・研修の期間・実施回数：平成26年9月16日 17:20～19:00

・研修の参加人数：47名

・研修の主な内容 3

獨協医科大学3病院放射線部合同研修会

・研修の期間・実施回数：平成26年10月19日 13:00～16:00

・研修の参加人数：68名

・研修の主な内容 4

平成26年度 第2回放射線部定例勉強会

1. 検査室内での被ばくについて

2. 福島災害医療センターを経験して

・研修の期間・実施回数：平成26年12月9日 17:20～18:20

・研修の参加人数：43名

・ 研修の主な内容 5

平成26年度 第3回放射線部定例勉強会

脳外科医師からみた放射線検査・治療の概要

・ 研修の期間・実施回数：平成27年度3月10日 17:30～18:30

・ 研修の参加人数：64名

・ 研修の主な内容 6

ハラスメント防止に関するDVD放映 勉強会

・ 研修の期間・実施回数：平成27年3月12日・13日・16日・17日・19日 17:15～18:15

(いずれか1日に参加)

・ 研修の参加人数：64名

・ 研修の主な内容 7

子宮頸がん診療におけるHPVタイピング検査

・ 研修の期間・実施回数：平成26年4月8日

・ 研修の参加人数：39名

・ 研修の主な内容 8

・ 第63回日本医学検査学会 予演会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年5月12日

・ 研修の参加人数：26名

・ 研修の主な内容 9

・ 肝細胞癌の特徴と腫瘍マーカーPIVKA II の役割

・ 研修の期間・実施回数：平成26年6月2日

・ 研修の参加人数：39名

・ 研修の主な内容 10

・ 高感度HBs抗原の有用性

・ 研修の期間・実施回数：平成26年7月18日

・研修の参加人数：34名

・研修の主な内容 11

・平成26年度日臨技関甲信支部医学検査学会(第51回)予演会①

・研修の期間・実施回数：平成26年9月17日

・研修の参加人数：28名

・研修の主な内容 12

・平成26年度日臨技関甲信支部医学検査学会(第51回)予演会②

・研修の期間・実施回数：平成26年9月22日

・研修の参加人数：32名

・研修の主な内容 13

・平成26年度日臨技関甲信支部医学検査学会(第51回)予演会③

・研修の期間・実施回数：平成26年9月24日

・研修の参加人数：26名

・研修の主な内容 14

・日本臨床検査自動化学会第46回大会予演会

・研修の期間・実施回数：平成26年10月3日

・研修の参加人数：13名

・研修の主な内容 15

・インフルエンザ抗原検査について

・研修の期間・実施回数：平成26年10月8日

・研修の参加人数：36名

・研修の主な内容 16

・第32回私立医科大学臨床検査技師会学術集会予演会

・研修の期間・実施回数：平成26年10月22日

・研修の参加人数：15名

・ 研修の主な内容 17

・ 精度管理研修会ーイムノアッセイを中心にー

・ 研修の期間・実施回数：平成26年10月28日

・ 研修の参加人数：28名

・ 研修の主な内容 18

・ HLA抗原とHLA抗体

・ 研修の期間・実施回数：平成26年11月17日

・ 研修の参加人数：23名

・ 研修の主な内容 19

・ Ipsogen BCR-ABL 1 Mbc IS-MMR DX試薬について

・ 研修の期間・実施回数：平成26年11月19日

・ 研修の参加人数：15名

・ 研修の主な内容 20

・ 特異的IgE抗体検査の変遷

・ 研修の期間・実施回数：平成26年11月25日

・ 研修の参加人数：20名

・ 研修の主な内容 21

・ 新入職員と宿日直者のための血液凝固検査の知っておきたい基礎知識

・ 研修の期間・実施回数：平成27年1月22日

・ 研修の参加人数：33名

・ 研修の主な内容 22

・ 胃がん検査ABC分類について

・ 研修の期間・実施回数：平成27年2月3日

・ 研修の参加人数：29名

・ 研修の主な内容 23

・ 第2回精度管理研修会

・ 研修の期間・実施回数：平成27年2月17日

・ 研修の参加人数：29名

・ 研修の主な内容 24

・ 脳波データネットワークシステムについて

・ 研修の期間・実施回数：平成27年2月26日

・ 研修の参加人数：10名

・ 研修の主な内容 25

・ ウイルス肝炎対策の現状—HCV発見から今日まで—

・ 研修の期間・実施回数：平成27年3月24日

・ 研修の参加人数：25名

・ 研修の主な内容 26

・ 実習生発表会、国公立医科大学講習会出張報告

・ 研修の期間・実施回数：平成27年3月27日

・ 研修の参加人数：43名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・ 研修の主な内容 1

医療設備機器選択勉強会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年4月15日 17:10～19:00

・ 研修の参加人数：46名

・ 研修の主な内容 2

栃木CT研究会予行会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年5月19日 17:30～19:00

・研修の参加人数：17名

・研修の主な内容 3

ワークステーション・フラットパネル勉強会

・研修の期間・実施回数：平成26年8月22日 17:30～18:30

・研修の参加人数：32名

・研修の主な内容 4

検査オーダー伝票運用講習会

・研修の期間・実施回数：平成26年9月2日・4日 17:10～18:30

・研修の参加人数：23名

・研修の主な内容 5

クラウド型画像保存勉強会

・研修の期間・実施回数：平成26年9月26日 17:30～18:30

・研修の参加人数：30名

・研修の主な内容 6

国際医療福祉大学 臨床実習終了発表会

・研修の期間・実施回数：平成26年12月4日 17:00～18:00

・研修の参加人数：23名

・研修の主な内容 7

血管造影最新装置勉強会

・研修の期間・実施回数：平成27年1月27日 17:30～18:30

・研修の参加人数：37名

・研修の主な内容 8

一般撮影室勉強会

・研修の期間・実施回数：平成27年2月12日 17:30～18:30

・研修の参加人数：22名

・研修の主な内容 9

CT最新装置勉強会

- ・研修の期間・実施回数：平成27年2月17日 17:30～18:30
- ・研修の参加人数：38名

・研修の主な内容 10

栃木県診療放射線技師会学会学術研究発表会 予行会

- ・研修の期間・実施回数：平成27年2月24日 17:30～19:30
- ・研修の参加人数：28名

・研修の主な内容 11

ハイブリッド手術室（血管撮影装置・自動注入器）研修会

- ・研修の期間・実施回数：平成27年2月27日 17:30～18:30
- ・研修の参加人数：46名

・研修の主な内容 12

ハイブリッド手術室 現場説明会

- ・研修の期間・実施回数：平成27年3月3日・4日・5日・6日・9日・11日 17:30～18:30

(いずれか1日に参加)

- ・研修の参加人数：55名

・研修の主な内容 13

- ・全体集会、H25度医療安全に関する報告

- ・研修の期間・実施回数：平成26年4月2日

- ・研修の参加人数：52名

・研修の主な内容 14

- ・①宿日直輸血検査連絡事項14、②第33回私大教育セミナー伝達講習会

- ・研修の期間・実施回数：平成26年5月9日

- ・研修の参加人数：50名

・ 研修の主な内容 15

・ 日本老年泌尿器学会予演会、H26第2回臨床検査C医療安全講習会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年6月19日

・ 研修の参加人数：42名

・ 研修の主な内容 16

・ 実習生の実習報告会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年7月4日

・ 研修の参加人数：39名

・ 研修の主な内容 17

・ Cre測定の課題とeGFRについて、クラリス精度管理システムの使用手順

・ 研修の期間・実施回数：平成26年8月8日

・ 研修の参加人数：40名

・ 研修の主な内容 18

・ ①不規則抗体陽性者対応、②輸血検査の基礎

・ 研修の期間・実施回数：平成26年12月11日

・ 研修の参加人数：40名

・ 研修の主な内容 19

・ 平成26年度年末年始宿日直業務連絡会

・ 研修の期間・実施回数：平成26年12月18日

・ 研修の参加人数：43名

・ 研修の主な内容 20

・ 採血・採尿自動受付機導入後の運用方法説明会

・ 研修の期間・実施回数：平成27年1月14日

・ 研修の参加人数：48名

・ 研修の主な内容 21

- ・ 一次救命処置(BLS)の対応について
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年2月25日
- ・ 研修の参加人数：49名
- ・ 研修の主な内容 22
- ・ 車椅子からの移乗動作について
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年3月23日
- ・ 研修の参加人数：42名
- ・ 研修の主な内容 23
- ・ 新採用看護職者に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：4月・7回
- ・ 研修の参加人数：721名
- ・ 研修の主な内容 24
- ・ 看護研究定例発表会
- ・ 研修の期間・実施回数：7月～11月・2回
- ・ 研修の参加人数：950名
- ・ 研修の主な内容 25
- ・ 緩和ケアに関する研修会
- ・ 研修の期間・実施回数：1月・1回
- ・ 研修の参加人数：450名
- ・ 研修の主な内容 26
- ・ 診療報酬に関する研修会
- ・ 研修の期間・実施回数：4月・1回
- ・ 研修の参加人数：70名
- ・ 研修の主な内容 27
- ・ 看護管理に関する研修会

・研修の期間・実施回数：11月・1回

・研修の参加人数：30名

・研修の主な内容 28

・BLS取得に関する研修会

・研修の期間・実施回数：7月・2回

・研修の参加人数：30名

・研修の主な内容 29

・看護必要度に関する研修会

・研修の期間・実施回数：5月・1回

・研修の参加人数：400名

・研修の主な内容 30

・主任研修会

・研修の期間・実施回数：4月～3月・6回

・研修の参加人数：240名

・研修の主な内容 31

・医療安全に関する研修

・研修の期間・実施回数：4月～11月 7回

・研修の参加人数：400名

・研修の主な内容 32

・看護研究に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～12月 10回

・研修の参加人数：560名

・研修の主な内容 33

・フィジカルアセスメントに関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～11月 4回

・研修の参加人数：337名

・研修の主な内容 34

・看護記録に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～7月 5回

・研修の参加人数：465名

・研修の主な内容 35

・倫理に関する研修

・研修の期間・実施回数：7月～12月 3回

・研修の参加人数：281名

・研修の主な内容 36

・ケースレポートに関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～11月 3回

・研修の参加人数：238名

・研修の主な内容 37

・リーダーシップに関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～10月 3回

・研修の参加人数：396名

・研修の主な内容 38

・プリセプターに関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～10月 2回

・研修の参加人数：203名

・研修の主な内容 39

・シミュレーションに関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～9月 1回

・研修の参加人数：95名

・研修の主な内容 40

・リフレッシュ研修

・研修の期間・実施回数：7月 1回

・研修の参加人数：99名

・研修の主な内容 41

・癌看護に関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～9月 3回

・研修の参加人数：97名

・研修の主な内容 42

・救急看護に関する研修

・研修の期間・実施回数：7月～10月 3回

・研修の参加人数：162名

・研修の主な内容 43

・感染看護に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～9月 3回

・研修の参加人数：187名

・研修の主な内容 44

・糖尿病看護に関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～9月 3回

・研修の参加人数：166名

・研修の主な内容 45

・皮膚・排泄看護に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～9月 3回

・研修の参加人数：253名

・研修の主な内容 46

・母性・新生児集中ケアに関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～7月 4回

・研修の参加人数：44名

・研修の主な内容 47

・臨床実習指導に関する研修

・研修の期間・実施回数：4月～11月 4回

・研修の参加人数：276名

・研修の主な内容 48

・新人指導計画に関する研修

・研修の期間・実施回数：4月～12月 4回

・研修の参加人数：198名

・研修の主な内容 49

・補助者に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～9月 4回

・研修の参加人数：333名

・研修の主な内容 50

・中途採用者に関する研修

・研修の期間・実施回数：8月～11月 3回

・研修の参加人数：40名

・研修の主な内容 51

・感染防止に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～3月 7回

・研修の参加人数：324名

・研修の主な内容 52

・NST（栄養サポートチーム）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月 ～ 3月・8回

・研修の参加人数：493名

・研修の主な内容 53

・スキンケアに関する研修・・・スキンケア委員会

・研修の期間・実施回数：5月～3月・10回

・研修の参加人数：408名

・研修の主な内容 54

・医療安全に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～3月・9回

・研修の参加人数：345名

・研修の主な内容 55

・口腔ケアに関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～3月・9回

・研修の参加人数：404名

・研修の主な内容 56

・インジェクショントレーナー養成研修・トレーナーフォローアップ研修

・研修の期間・実施回数：5月～7月・6回

・研修の参加人数：108名

・研修の期間・実施回数：11月～12月・4回

・研修の参加人数：125名

・研修の主な内容 57

・退院支援リンクナース研修会

・研修の期間・実施回数：5月～2月・8回

・研修の参加人数：200名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|---|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ○ 2. 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 平石秀幸 |
| 管理担当者氏名 | 庶務課 高橋 三千男 医事保険課 飯塚 一幸 診療記録管理部 白川 幸央 医療安全推進センター 金子 一 総合医療連携室 落合 守広 感染制御センター 小川 栄一 経理課 篠原 尚 臨床研修センター 賀長 隆 薬剤部 越川 千秋 |

| | 保管場所 | 管理方法 |
|--|--|--|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 庶務課 医事保険課 診療記録管理部 薬剤部 手術部 | 診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が1元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 庶務課 |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事保険課 |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医事保険課 |
| | 高度の医療の研修の実績 | 庶務課 臨床研修センター |
| | 閲覧実績 | 庶務課 |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 総合医療連携室 医事保険課 |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事保険課 薬剤部 |
| 第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号の状況及び | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全推進センター |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全推進センター |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全推進センター |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全推進センター |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療安全推進センター |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染制御センター |

| | | | |
|--|-----------|------------------------------------|------------|
| | 第九條の二十第一項 | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療安全推進センター |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療安全推進センター |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|---|---|----------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況 | 感染制御センター |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染制御センター |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御センター |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御センター |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 経理課 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 経理課 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 経理課 |
| | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 経理課 | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|---|--------------------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ○ 2. 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 平石 秀幸 |
| 閲覧担当者氏名 | 事務部次長兼庶務課長 高橋 三千男 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 事務部 |
| 閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。 | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|---------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医 師 | 延 0件 |
| | 歯 科 医 師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|--|---------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | ○有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：①安全管理に関する基本的な考え方</p> <p>②医療安全管理委員会・その他の組織に関すること</p> <p>③医療に係る安全管理のための職員研修に関すること</p> <p>④事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関すること</p> <p>⑤医療事故発生時の対応に関すること</p> <p>⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関すること</p> <p>⑦患者からの相談への対応に関すること</p> <p>⑧その他医療安全の推進のために必要なこと</p> | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：①医療安全対策の検討及び研究に関すること</p> <p>②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること</p> <p>③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること</p> <p>④医療安全対策のために行う提言に関すること</p> <p>⑤医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</p> <p>⑥安全パトロール</p> <p>⑦その他医療安全対策に関すること</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 1 1 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①平成 2 6 年 4 月 1 日（火）午後 2 時 4 5 分から 4 時 0 0 分 （対象者：平成 2 6 年度新入教職員・・・医療従事者等）</p> <p>②平成 2 6 年 4 月 2 日（水）午後 2 時 2 0 分から 3 時 2 0 分 （対象者：平成 2 6 年度新入看護師）</p> <p>③平成 2 6 年 4 月 4 日（金）午前 1 1 時 0 0 分から 1 2 時 0 0 分 （対象者：平成 2 6 年度新臨床研修医）</p> | |

④平成26年4月 7日（月）午前11時30分から12時00分

（対象者：平成26年度新臨床研修医）

⑤平成26年4月10日（木）午後0時から0時40分

（対象者：平成26年度大学院生）

形態：オリエンテーション

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 課長 五月女 弘実、事務長 金子 一

③医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「当院における個人情報保護について」

③「医療安全講習会 臨床研修医向け」

内容：「当院の医療安全体制」並びに「当院の個人情報保護」について解説がなされた。

参加者：①161名

②209名

③ 48名

○第1回 開催日：平成26年5月16日（金）

午後5時から午後6時

形態：講習会

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「平成25年度院内インシデント・アクシデント報告データとその内容」

②「マインドマップを用いた新人看護師教育」

内容：「平成25年度インシデント・アクシデント報告数、項目別割合、内容、日本医療機能評価安全情報から当院での類似事例の説明等」、「マインドマップを用いた医療安全と患者対応の仕方」について解説がなされた。

参加者：一般教職員838名

○第2回 開催日：平成26年6月12日（木）

午後5時30分から午後6時30分

形態：講習会

講師：①放射線部 後藤 和則 氏

②放射線科 教授 楫 靖 教授

演題：①「被ばく低減施設認定 WG の活動状況について」

②「被ばくと甲状腺癌について」

内容：「被ばくのリスクの提示、検査管理等の説明」「甲状腺被ばくの影響や甲状腺癌の発生」について解説がなされた。

参加者：433名

○第3回 開催日：平成26年7月3日（木）

午後5時15分から6時15分

形態：講習会

講師：防衛医科大学校 輸血血液浄化療法部

主任臨床検査技師 坂口 武司 先生

演題：「血液製剤の取り扱いとインシデント対策」

内容：2013年度発生した輸血関連のインシデント状況、再発防止策の取り組み等
解説がなされた。

参加者：741名

○第4回 開催日：平成26年9月11日（木）

午後5時から午後6時

形態：講習会

講師：麻酔科 教授 山口 重樹 先生

演題：「オピオイドの適正使用 ～なぜオピオイドを使うのか？なぜオピオイドが
危ないのか？～」

内容：オピオイドの適正な使用方法等について解説がなされた。

参加者：352名

○第5回 開催日：①平成26年9月18日（木）午後5時から午後6時

②平成26年9月19日（金）午後5時30分から午後6時30分

形態：実技講習会

講 師：救命医学 学内准教授 松島 久雄 先生

演 題：「院内パドル式除細動器の安全使用について」

①PHILIPS 製の除細動器 フクダ電子

②日本光電の除細動器 日本光電

内 容：院内パドル式除細動器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：① 349名

② 180名

○第6回 開催日：平成26年10月31日（金）

午後5時から午後6時

形 態：講習会

講 師：(株)ブレインスイッチ 代表取締役 壁山 恵美子 先生

演 題：「プレゼンテーションの極意 ～わかりやすい伝え方」

内 容：プレゼンテーションのポイント、相手に「伝える」本質について解説がなされた。

参加者：323名

○第7回 開催日：平成26年11月11日（火）

午後5時から6時

形 態：講習会

講 師：独立行政法人医薬品医療機器総合機構

健康被害救済部 調査第一課長 加藤 直人 先生

演 題：「医薬品副作用被害救済制度について」

内 容：医薬品等の副作用・感染による健康被害の救済についての解説がなされた。

参加者：162名

○第8回 開催日：平成26年12月2日（火）

午後5時から午後6時20分

形 態：講習会

講 師：①公衆衛生学 助教 梅澤 光政 先生

②感染制御・臨床検査医学 講師 福島 篤仁 先生

演 題：「安全に働き続けるための職場の見かた ―働く人の健康と安全を考える―」

内 容：産業保健の法体系、労働衛生の3管理(医療安全部門)、医療従事者の感染予防等(感染制御部門)の解説がなされた。

参加者：571名

○第9回 開催日：平成27年1月19日(月)

午後5時～6時30分

形 態：講習会

講 師：NTT 東日本関東病院 名誉院長

東京医療保健大学 学事顧問

医学博士 落合 慈之 先生

演 題：「医療安全における組織のあり方」

内 容：医療安全の組織、目標、病院での取り組み等解説がなされた。

参加者：421名

○第10回 開催日：平成27年2月19日(木)

午後5時15分～6時15分

形 態：講習会

講 師：輸血部 篠原 茂 技師

輸血部 高橋 渉 先生

演 題：「院内の輸血関連インシデント事例報告」

内 容：2014年度輸血関連インシデント事例内容、要因、再発防止の取り組みについて解説がなされた。

参加者：278名

○第11回 開催日：平成27年3月31日(火)

午後5時～7時

形 態：講習会

講 師：リスクマネジャー委員会委員

演 題：「平成26年度リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネージャー小委員会の年間活動内容及び検証結果について
発表した。

参加者：215名

※2日間で行う予定でしたが、1日で執り行った。2回受講とした。

○ビデオ視聴

形 態：医療安全推進課管理ビデオ視聴

視聴者数：535名(平成27年5月11日現在)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【タイトル】

本来、ラリンクス T の吸入をすべきであったが塩酸 5000 倍エピレナミン液を患者 8 人に吸入させてしまった。

【情報】

- 当院 使用のオレンジボトルは 30ml 60ml 100ml 300ml 500ml がある。
- 病棟が請求した量で、容量容器が選択される
- 事例発生病棟は、ラリンクス T 塩酸 5000 倍エピレナミン液 2%キシロカイン液が 300ml オレンジボトルを使用している
- 準備室冷蔵庫 ラリンクス T 保管
- 処置室冷蔵庫 塩酸 5000 倍エピレナミン液 2%キシロカイン液を保管

【事例概要】

10月28日 日勤で塩酸 5000 倍エピレナミン液の残量が少ないため、薬剤部に請求し準夜に供給された。準夜看護師は、供給された塩酸 5000 倍エピレナミン液を、本来、処置室冷蔵庫に保管しなくてはならなかったが、確認を怠り準備室冷蔵庫に保管した。11月3日に薬液がなくなり、準備当番看護師は、準備室冷蔵庫にあるのでラベルの確認を怠り、ラリンクス T と思い込み、塩酸 5000 倍エピレナミン液ボトルを開封し1名分の吸入として準備した。11月4日にも準備室冷蔵庫に保管されている塩酸 5000 倍エピレナミン液のラベルの確認を怠り、ラリンクス T と思い込み、数人の患者分の吸入を準備、実施してしまった。11月5日ラリンクス T の準備を依頼された看護

師が、本来、準備室冷蔵庫に保管されているはずのない、塩酸 5000 倍エピレナミン液が保管されていることに気づき、調査した結果、2 日間にわたり、計 8 人の患者に塩酸 5000 倍エピレナミン液が吸入されてしまったことがわかった。8 人の患者へ障害は認められなかった。8 人の患者に説明と謝罪をした。

【検証】

- 病棟看護師、安全管理者参加で RCA 分析を行った。
- 表示ラベルの確認を怠り、処置室冷蔵庫に保管すべき薬剤を、準備室冷蔵庫に保管してしまった。
- 薬剤の準備をする際に、薬剤ボトルの表示ラベルを確認することを怠り、準備し患者に投与してしまった。
- 分析の後に、病棟訪問を行い状況の確認を行った。ラリンクス T と 2%キシロカイン液のボトルサイズが同じであり誤る可能性がある。
- 同じ場所に 2 種類の薬剤が混在しており、薬剤の整理方法が十分とはいえず、別の薬剤誤りの可能性があると考えられ、修正を指導した。

【改善策】

- ボトルサイズ変更を行う。
- 表示ラベルの確認を徹底する。
- 医療安全管理委員会で事例、検証結果の報告を行った。しかし、ボトルサイズの変更だけでは再発防止策は不十分である。今後、薬剤師を交え、更なる改善策を検討すべきである結論となり、ラベルの変更を検討中している。

【現在】

- ラリンクス T 300ml ボトル 準備室冷蔵庫へ保管
- 塩酸 5000 倍エピレナミン液 500ml 褐色瓶 処置室冷蔵庫へ保管
- 2%キシロカイン液は 100ml ボトル 処置室冷蔵庫へ保管
- 同インシデント報告はない

| | |
|---|----------|
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | ○有（1名）・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | ○有（1名）・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | ○有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（6）名 兼任（3）名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①インシデント・アクシデント情報の収集・分析と改善案の立案に関する事 ②医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関する事 ③事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う事 ④患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う事 ⑤事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行う事 ⑥医療安全に係る連絡調整に関する事 ⑦その他医療安全の推進に関する事 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | ○有・無 |

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|------|-------------|-----|-------------|-----|------------|-----|-------------|-----|------------|-----|-------------|-----|------------|------|-------------|-----|------------|------|-------------|-----|------------|------|-------------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | ○有・無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定日：平成 19年10月 1日 改訂日：平成 24年 1月18日</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本的事項・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針・ 感染事例報告などの医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針・ 患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ 患者からの相談への対応に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年12回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内ラウンドの報告2) 病原体の検出報告 (MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌等)3) 感染症治療薬使用状況 (毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬)4) 感染症発生報告5) その他 <p>・ 開催状況：</p> <table border="0"><tr><td>第1回</td><td>平成26年4月22日</td><td>第7回</td><td>平成26年10月28日</td></tr><tr><td>第2回</td><td>平成26年5月27日</td><td>第8回</td><td>平成26年11月25日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>平成26年6月24日</td><td>第9回</td><td>平成26年12月16日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>平成26年7月22日</td><td>第10回</td><td>平成27年 1月27日</td></tr><tr><td>第5回</td><td>平成26年8月26日</td><td>第11回</td><td>平成27年 2月24日</td></tr><tr><td>第6回</td><td>平成26年9月30日</td><td>第12回</td><td>平成27年 3月31日</td></tr></table> | | 第1回 | 平成26年4月22日 | 第7回 | 平成26年10月28日 | 第2回 | 平成26年5月27日 | 第8回 | 平成26年11月25日 | 第3回 | 平成26年6月24日 | 第9回 | 平成26年12月16日 | 第4回 | 平成26年7月22日 | 第10回 | 平成27年 1月27日 | 第5回 | 平成26年8月26日 | 第11回 | 平成27年 2月24日 | 第6回 | 平成26年9月30日 | 第12回 | 平成27年 3月31日 |
| 第1回 | 平成26年4月22日 | 第7回 | 平成26年10月28日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 平成26年5月27日 | 第8回 | 平成26年11月25日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 平成26年6月24日 | 第9回 | 平成26年12月16日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 平成26年7月22日 | 第10回 | 平成27年 1月27日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 平成26年8月26日 | 第11回 | 平成27年 2月24日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 平成26年9月30日 | 第12回 | 平成27年 3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 全教職員対象 年19回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○新入職者オリエンテーション (平成27年度4月採用予定者)</p> <p>・ 日程及び内容： 平成27年3月13日(金)、3月20日(金)</p> <p>場 所： 教室棟 125番教室、</p> <p>講 師： 早川 千亜紀 氏 (看護部主任、感染制御センター兼務・感染制御実践看護師)</p> <p>受講数： 158名</p> <p>○研修医オリエンテーション</p> <p>・ 日程及び内容： 平成26年4月4日(金) 13:00~17:00 講義 『病院感染の重要な病原微生物学』 演習 『手指衛生・PPE装着脱・フィットテスト』</p> <p>平成26年4月8日(火) 9:00~12:00 手指衛生実習の効果と判定、グループ討議 講義 『手の衛生について』 『抗菌薬について』 『感染症診療』</p> <p>・ 場 所： 臨床研修センター大会議室</p> <p>・ 講 師： 感染制御センタースタッフ (医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師など)</p> <p>・ 受 講 数： 48名</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

○新規採用者オリエンテーション

- ・日程及び内容： 対象者：医師（後期研修医含）、医療従事者、事務など
日 程：採用月に30分程度実施
場 所：病院3階中会議室No.2、他
内 容：講義「医療施設内での感染拡大を防ぐ」
講 師：岡本 友紀 氏（臨床検査センター副主任、感染制御センター兼務）
受 講 数：医師25名、医療従事者・事務など32名

○院内感染防止対策講習会（全教職員対象）

- ・第1回：『 小児の風邪 』
日 時：平成26年6月16日(月) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：今高 城治 先生（小児科学 学内講師）
受講数：880名
- ・第2回：『 結核について 』
日 時：平成26年7月9日(水) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：吉川 弥須子 先生（呼吸器・アレルギー内科学 学内助教）
受講数：647名
- ・第3回：『 標準予防策 』
日 時：平成26年7月28日(月) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟10階講堂
受講数：1,178名
講 師：加納 江利子 先生（東京都健康長寿医療センター 感染管理認定看護師）
- ・第4回：『 感染症クライシスへの対応 』
日 時：平成26年10月16日(木) 17:00～18:00
場 所：関湊記念ホール
講 師：賀来 満夫 先生（東北大学大学院医学系研究科 感染制御・検査診断学）
受講数：270名
- ・第5回：『 安全に働き続けるための職場の見方 』
日 時：平成26年12月2日(火) 17:00～18:20
場 所：関湊記念ホール
講演①：「安全に働き続けるための職場の見方」
講 師：梅澤 光政 先生（公衆衛生学 助教）
講演②：「安全に働き続けるための職場の見方-職業感染防止策-」
講 師：福島 篤仁 先生（感染制御・臨床検査医学 学内助教）
受講数：581名
- ・第6回：『 ICT活動報告 』
日 時：平成27年3月11日(水) 17:00～17:40
場 所：臨床医学棟10階講堂
講演①：「汚物室における環境表面の汚染調査」
演 者：伊福 加奈子 氏（看護部 看護師）
講演②：「コンタクトレンズケースの微生物学的汚染調査」
演 者：柏木 茜 氏（看護部 看護師）
講演③：「ハンドケア用品が手指消毒効果に及ぼす影響」
演 者：針谷 美保子 氏（看護部 看護師）
受講数：151名

○「標準予防策」DVD上映会（計13回）

視聴者数：1,011名

○ビデオ視聴会

視聴者数：571名

○部署別講習会

・委託業者対象講習会

日 時：平成27年2月5日(木)、2月6日(金)、2月13日(金)
10:30~17:00の間で、1回30分を数回にわけて開催

場 所：センター棟4階大会議室

講 師：早川千亜紀氏(感染制御実践看護師)

受講数：292名

内 容：講義「身近にある感染の危険性」、演習「手洗い・手指消毒」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医及び感染制御センターへその都度報告される。その感染症の届出を要するものについて速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ○有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 3 7 回 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全対策講習会（除細動器） 2 回臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等） 2 0 回臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等） 2 回臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等） 5 回製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等） 4 回 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">保守点検記録表に基づく点検の実施保守点検記録表の保管・管理 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理 | |

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | ○有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| ・ 研修の主な内容： ①オピオイドの適正使用～なぜオピオイドを使うのか？なぜオピオイドが危ないのか？～ ②医薬品副作用救済制度について | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、院内製剤。 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①ヘパリンロック用薬剤「ヘパリンNaロック用100単位/mLシリンジ」をルアースリップタイプから抜去防止機能の付いたルアーロックタイプに変更した。 ②KCL注とアスparaKのシリンジ包装の外観が似ていることから、KCL注に黄色のシールを貼り、取違い防止を図っている。 ③抗がん剤のパラプラチン、タキソール、ワンタキソテールはそれぞれ複数の規格があり間違えやすいので、製品ごとに判別シールを貼り、監査時に再確認のためそのシールをはがして処方せんに貼ることで、インシデント防止を図っている。 | |

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|--|------|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | ○有・無 |
| <p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>公益財団法人 日本医療機能評価機構</p> <p>訪問審査受審(3rdG:Ver.1.0) : 平成25年10月2日(水)～3日(木)の2日間</p> <p>認定年月日:平成25年11月17日(認定日より5年間有効)</p> | |

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|---|------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | ○有・無 |
| <p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>栃木県保健医療計画(6期計画)に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主な地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やH p、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。</p> | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|---|------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | ○有・無 |
| <p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科(心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科)の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至</p> | |

るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、最近では前立腺センター、再生医療センター及び放射線治療センターを設置するなど、院内18センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者様により分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでおります。

(様式第 8)

獨医大病庶庶発第 7 0 号
平成 2 7 年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

獨協医科大学病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

○ 1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

| 昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置) | 今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由 |
|---|--|
| 【逆紹介率】 ○平成 2 5 年度 ; 3 4 . 4 % (実績) ○平成 2 6 年度 ; 4 3 . 0 % (年次目標) ○平成 2 7 年度 ; 5 1 . 0 % (年次目標) ○平成 2 8 年度 ; 5 5 . 0 % (年次目標) ○平成 2 9 年度 ; 5 5 . 0 % (年次目標) ○平成 3 0 年度 ; 5 5 . 0 % (年次目標) | 【逆紹介率】 ○平成 2 6 年度 ; 4 9 . 8 % (実績) |

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

| |
|--|
| |
|--|

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2 で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。